

合同地域医療構想調整ワーキンググループの開催結果

1 開催日時・場所

平成28年4月25日（月）午後2時から午後3時30分まで
愛知県自治センター 6階 第603会議室

2 出席者

(敬称略)

	所属	役職名	氏名
西三河南部西	刈谷医師会	会長	齋藤 敏明
	安城市医師会	会長	藤井 康彰
	厚生連安城更生病院	院長	浦田 士郎
	刈谷豊田総合病院	院長	井本 正巳
	西尾市民病院	院長	禰宜田 政隆
西三河南部東	岡崎市医師会	会長	小森 保生
	岡崎市民病院	院長	木村 次郎
	岡崎市保健部	部長	鈴木 司朗
	岡崎市保健所	所長	服部 悟
	幸田町健康福祉部	部長	大澤 正
尾張東部	瀬戸旭医師会	会長	黒江 幸四郎
	藤田保健衛生大学病院	院長	湯澤 由紀夫
	愛知国際病院	理事長	井手 宏
	公立陶生病院	院長	酒井 和好
	愛知医科大学病院	院長	羽生田 正行

3 主な意見

西三河南部西	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西三河南部西は、今後も医療需要が増大していく地域で病床利用率も高く、病床も不足気味。たたき台は、西三河南部西の実情からかけ離れている。 ○ 西三河南部東からの流入を戻すというのであれば、西三河南部西からの流出も地域住民のために戻されるべきではないか。 ○ 2040年には病床が不足する地域であり、それを見越して必要病床数推計の調整をすべきである。 ○ 西三河だけ調整するという安易な方法はよくない。調整するのであれば病床過剰地域である名古屋についても手を付けるべきではないか。 ○ 県全域で医療機関所在地ベースに統一すべきである。
--------	---

西三河南部東	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療構想は、高度急性期を除き構想区域ごとに地域医療を完結させることを目標にしていることから患者住所地ベースを主張してきたが、以下を条件にたたき台に賛成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き各医療圏における今後の患者数や流出入の推移、病床稼働率などを分析し、状況に応じて速やかに構想や数字を見直していくこと ・最新の分析データを毎年各圏域に提供し、地域の実態に即した実行可能な見直しについて毎年行っていくこと ○ 将来のあるべき医療提供体制に近づける努力として西三河南部に2次救急病院が新設されることは妥当であり、従って、たたき台も妥当である。ただし、病床をどこから持ってくるかは別の議論であり、県全体で考え直すべきである。 ○ 医療関係者と行政が一体となって新病院の招致事業を進めており、新病院と2次医療圏内での新しい体制づくりについて話しあいをする準備もできている。最低限、たたき台の必要病床数を維持してほしい。
尾張東部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 尾張東部構想区域の意見集約としては、医療機関所在地ベースで異論はない。 ○ 尾張東部構想区域には大学病院が2つある特殊性があり、高度医療を求めて患者が流れる部分がかかなり多いのではないか。尾張東部や名古屋の大学病院への流れは、病床不足や地域性による流れではない。医療政策上の調整を行っても大きく変わることはない。 ○ 患者の流れを見ると多くの患者が他の圏域から名古屋に流れているので、名古屋医療圏を入れずに議論しても局地的な話になってしまう。 ○ 個人的な意見としては、新病院建設による他医療圏の患者の流出入推計には無理があるのではないか。